4．保護者・地域社会・関係機関との連携

4－1
園での様子を伝え家庭での様子を聞くなかで、子どもの育ちを保護者とともに、考え、喜びあうことができますか。

コミュニケーションの基本は、お互いの信頼関係です

「私は、あなたの子育てを応援し支援します」我々保育士が子育ての支援者であり仲間である。一緒に子育てしてくれる。そう思って貰えるために、一人ひとりの親との信じあう関係を作ります。又、保育園は、親自身にもほっとできる居場所となっているでしょか？秘密が守られる雰囲気はあるでしょうか。

まず信頼を持って話してくれる為には、聴く事です。そして聴く為には、それを引き出す為の言葉掛けがいります。子どもへの評価的な内容よりも、子どもの様子を伝えます。園での様子を伝える時にもポイントがあります。まず親を安心させていくことがスタートですから、子育てを自分自身の評価に繋げがちな親にとっては失敗例より、あくまで親を肯定していく成功例をより多く伝えます。いつか、お互いが子どもの為に何でも言える関係になる前には、育児のプロである私たちの方から謙虚な姿勢で向き合う賢さが求められます。たくさんの子どもと親にあって、その姿への理解が深い保育士と、様々な能力は、高くとも子育てに関しては、素人であり初心者である親が同じように子どもに対し理解ができる訳ではありません。「最初から親になる親はいない」という言葉のとおりなのです。

その次に、ともに喜んだり悲しんだりといった共感ができる為に、生活の一場面をエピソードとして伝える場合に「うれしかったのよ…私も」といった子どもの育ちを見守る中での人としての自らの感情を表していくことも必要ではないでしょうか。

一人一人の育ちをしっかりと見守り続ける事ができる

例えば多くの支援を必要とする子どもの状態を伝えるとき、又ある時、親が個性

的であり常識的ではなかったりする場合、多くの保育士は、一つの正しい育て方や、常識的な枠に入れようとしませんか。親も人間です。人の親として人間的に成長する為には少し時間が掛かる場合もあります。人間関係の距離感が持てない、緊張を強いる親もいるはずです。目を見て笑顔でと、いくらマニュアル的に対応しても上手くいかない場合もあるはずです。そんな親でも根気よく、こちらから一人ひとりにあわせ寄り添っていきます。その積み重ねと継続が満ちて、「このひとは信頼できる」という思いが生まれるのではないでしょうか。親も子も私たちもその関わりの中でわずかずつ確実に成長するはずです。大変だった育児もその中で喜びに変わります。人が成長する事には、時に痛みや苦しみも伴います。しかしその分喜びも大きいはずです。育児という大切な人としての仕事にも親として成功体験をより多くしてほしいものです。それも保育士の心配りの一つです。

（細川）

４－２
その日の子どもの健康状態や興味を持った遊びなど、必要に応じてお迎えの時に保護者に丁寧に伝えるように努めていますか。

わが子に育児の手が届かぬ時間を信頼できるパートナーとして保育士が補います

子育てをしていく上で最も障害になってくる原因の一つに、育児に対する不安があります。子育てを始めたばかりの親の不安や心配を解消していき、安心安全な場所としての保育園の力が生かせ発揮できる事は何でしょうか。例えば発達のなかで当然起こってくることを、深刻に考え過ぎてしまう事が幾らでもあるはずです。保育園の生活の中での子どもの姿、集団生活の中での一つの場面を親にいかに『子育ての協力者としての位置』から発信していくか。日々の中で、親との関係が夫婦や、家族の一員という風合い、信頼できるパートナーとの関係にはならないでしょうか。楽しい事も、苦しい事も、つらい事も、嬉しい事も、一緒にいて分かってくれる人、駄目な親の自分を受け入れてくる。人が寄り添い励ましてくれれば、困難を乗り越える時に大きな力になるのです。嬉しい時は、ともに手をとり喜ぶ事ができるので

す。私が仕事をする事で、子どもを犠牲にしている。そう思っている親もいまだに多く存在します。保育園にいる間は、保育園の子で、わが子の様に保育士が育て、そこの家族としての豊かな生活を送っている事を実感する為に、具体的なエピソードとしての子ども姿を何度でも親に伝えてきます。親も可愛がってもらっているという実感を持ち信頼を深めるのです。又、ただ聴いてもらう事の積み重ねで親として自分を認められ、これでいいんだ、と自分らしい親としての姿を、自分自身認めていく事が、できていくのではないでしょうか。親としての自分への信頼、自信が育ちます。

相手を大切に思う気持ちの現れが言葉にでます

「子どもをしっかりと観ている事」は伝える事がたくさんできる事です。相手にまなざしを向け、興味や関心を持つ。わが子を大切に思ってくれている。目を向けられ、見ていてくれた事への感謝もうまれる事でしょう。子どもの話を楽しくできることは、さらに育児に喜びや楽しみ、幸福感をうみます。親自身の大きなエネルギーの源にもなっていくのです。親は子どもの笑顔が何よりの支えになります。

生のコミュニケーションにマニュアル的なものもつかい、より充実させる

健康状態のチェック、遊びや生活の様子を知らせる、与薬依頼書などをつかっていく。など今では、様々なコミュニケーションを補うものも充実してきました。生かせるものは、創意工夫で生かしていきます。しかしやはり努めて生のコミュニケーション、生きた言葉を使います。我々大人が子どもの前でその姿を自然な形で見せることができる日常こそ、子どもにとっても優れた環境となります。

「少しお話しする時間がありますか？」と先ず相手の立場にたった配慮を持ち、どうしても伝えたいことを伝える。そんな場面も考えられます。もちろん時には連絡帳や日々の記録を生かしていくことも必要です。

（細川）

４－３
保護者から突然、お迎えが遅くなると連絡があった時にも、快く応対するよう努めていますか。

先ず親を信頼することからスタートしていますか？

信頼は信頼をうみます。先ず親を信頼することからスタートしていますか？又児童票などで家族構成ほか、家族全体の姿を十分把握しておくことも大切ではないでしょうか。いつもの様子が解るために、観察と基礎的な子どもを見る目は必要です。親と子の子育てを支援していく上で親の就労の形態を知り、理解者として支援していくことが必要だからです。利用者である親は、どうしても弱者であることを我々が知っていくことも大切です。さらにその基本にはやはり日頃の親と子の様子が解っている事です。日頃から親に声をかける生活をしている事で、お互いの誠意を持った関係、お互いに配慮ある良い関係も結ばれていくのです。いつも注意される、叱られる、と思わせてしまう様な、指導型でのコミュニケーションはもはや今の親に通用しないかも知れません。子育ての支援者であり仲間である。そう思ってくれる快い対応が望まれます。やはりどこまでも、育児に疲れ、がんばっている親の応援団としての保育園は、楽しいところ、安心できる場所、そんな良いイメージとして存在する事が大切です。時間内に遅れて疲れきって帰って来たときにかけれた言葉で、人の温かさも知っていくのではないでしょうか。

弱者である子どもを危険から守る時には、毅然とした態度で親に真剣に向き合う事が求められます

いつも自己中心的で自分本位な親にもすこしずつ寄り添い、親として子どもへの責任や、社会のルールを覚えてもらう事が必要です。親が親になっていく道程も支援します。信頼関係ができたところで時には、毅然とした態度で親に真剣に向き合う事が求められる場面もあるはずです。それは最も弱い存在である子どもを危険から守る時です。遅くなっている親を持つ間も子どもにとって居心地の良い、いつもの保育園と信頼できる保育士が自分を安心のなかで、温かく保育してくれることが

保証されている事が願われます。

（細川）

4－4

保護者が育児の悩みや心配事を話してみたくなり、一緒に考えてくれる存在であると思えるよう、あなたはこちらからすすんで触れ合うことを心がけていますか。

『子育て＝孤育て』思った以上に親は、孤立に向かいやすいのです

子育てを孤育てなどという、当て字で表したそれが全くぴったりとするほど、地域や人と人とのつながりも薄くなりました。子どもを守る地域としての安全、安心な基地的機能も危うくなりました。家族の持つ力は、どうでしょうか。例えば深刻な悩みというより、愚痴や不安をお互いに言ったり聞いたり出来る事、つまり、ガス抜的なケアができる空気が家族、友達の中に存れば良いのですが、余り期待できない状況です。生活を維持する中で時間、或いは、経済面でのゆとりが生まれてくる状況ではない事も大きな原因の一つかも知れません。一つ一つの家庭もその構成メンバー、就労形態などがそれぞれ違う様に全く異なります。つまり、子どもを育てる日々の中で悩みや心配が生まれたとしても、この環境では、解決の方向へ行くことはなかなかできないのです。

いつもの様子が解るために、観察と基礎的な子どもを見る目が必要

保育所保育指針では、各所に子どもの発達を保育士がどうとらえ、把握しながら、親と子の子育てをどう支援していくかが示されています。子どもの発達を学ぶ事は、しっかりとしたプロの保育士としての基礎的な力を持つ上でも継続していく事が必要です。利用者である親が安心して相談できる保育者となる為には、保育の基本的な知識が必要です。さらにその基本には日頃の親と子の様子が観察してある事が大切です。例えば障害を持った子どもの親、一人親、鬱の親、育児不安を抱えた親等。親の一人一人が持つ様々な不安を共に整理していく力も時には必要とされます。

以前なら、飲まない、食べない、指しゃぶりなどの癖、お友達とのトラブルなどなどが相談のほとんどだったのですが、様々な時代の背景から、最近の相談は我々

が受けるものとしての相談である『保育相談』から全く専門外である心理、発達相談までを利用者が求めてきます。

「この子は、多動児ですか？」

「この子、発達障害か自閉症ではないですか？」

最近よくある質問です。

安心して相談できる場所としての保育園

日頃から親に声をかける生活をしているでしょうか。時には、育児の核心に触れる話題よりも、生活の中でのさりげない会話。いわゆる雑談、がお互いの信頼関係を作る上での助けになります。又、確実に秘密は守られるといった、守秘義務が守られていれば、大事になる前の情報が伝わってくる筈です。又ある時には、親のガス抜きとしてイライラを解消するものにもなるのです。言葉づかいも意識しておく事が必要です。いつも注意される、叱られる、と思わせてしまう様な、指導型でのコミュニケーションを、相談の基本である受容を踏まえ、共感型へと変えてみてはどうでしょうか。言葉遣い一つにも配慮がある事で、我々保育士に対し理解者である、敵ではなく子育ての支援者であり仲間である、そう思ってくれるのではないでしょうか。我々一人ひとりが保育園では人的環境です。保育園は、楽しいところ、安心できる場所。そんな良いイメージとしての保育園が大切です。業務上知り得た事項の秘密保持が保育士の保育姿勢として指針に明記されています。秘密を漏らさぬ事が大きな安心の土台となって心配事が話せるのではないでしょうか。　（細川）

４－５
たとえあなたの保育に批判的な保護者であっても、対立せずに受容し、意見や要求を聴こうとする姿勢がもてますか。

親の意見や要求は我々が様々な事を学ぶ為の大切な学びのチャンスです

私たちが、話を聴こうとしているか、聴く耳を持っている人間であるかどうかを、親は冷静にみているはずです。その時に自分の保育は、どうなのか。何を批判され

たのか。しっかりとした目で自らの保育をもう一度見直す事はできますか？　又、それとは逆に、自分自身の保育の大切にしている部分を上手く保護者に伝えられているでしょうか。日々の多忙さから簡単に処理的に済ませてしまい、後で誤解が生まれるような保育や、コミュニケーションを取ってしまわなかったでしょうか。もう一度見直す事が求められています。

保育とは、自分を見つめ、自らの生き方を問う仕事でもあります。価値観や文化は、ひとそれぞれ異なります。敵対していくのではなく、真ん中に存在している大切な子どもの為にお互いの協力関係を築いていく事ができますか。

時には、少し距離を置いた冷却期間を持ってみたりしながら、知恵を働かせ何とか話をしっかりとしていく関係を結ぶ事が、相手にとっても自らにとっても必要です。なによりも子どもにとって何時までも解決の方向へ向かわないとしたら、子ども不在の状況にもなりかねません。相手を批判するよりも、わずかでも話をしていく事のできる人間関係を築く事も大切かもしれません。

嫌な事ですが、投書マニア、医療ショッピング、相談ショッピング、さらには、何かの刺激が欲しく、得体のしれない社会への怒りをぶつけてくる方もいます。相手の個性も見極めた対応は、必要かもしれません。それでも相手を排除するのでは、本当の意味で子どもを大切にした事にはなりません。子どもと親を育てていく力量が保育士一人ひとりに求められています。

子どもにとっての育児の主催者は、その子の親であり、その子を大切にするとは、その親を本当の意味で親として大切に育てていくための、厳しさと温かい優しさをもち、しっかりと向き合っていく事から始まります。その中には、関わった者すべての大きな育ちが生まれる筈です。

（細川）

４－６

あなたは、保育に関する保護者の考えや提案を積極的に聞き、保育の流れの中で適切と思うものについては、園長等と話し合った上で、受け入れるように努めていますか。

子育ての主役は子ども。その事を我々大人が真剣に考えていく事

保育所保育指針の最初の部分である、第一章総則には、

『保育所における保育の基本は、家庭や地域社会と連携を図り、保護者の協力の下に家庭養育の補完を行い、子どもが健康安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるようにする事により、健全な心身の発達を図るところにある』とあります。

このことは、子どもがその生活の大半を過ごす保育園が家庭と協力して一つの事、育児を成し遂げる事であり、親と保育士が協力して子育てに関わっていくことであります。親と保育園の関わりのバランスは、どちらかが一方的に従じていくのでなく、共同、相互の関係です。初めての子育てに慣れず、何も解らない親や、たとえ子どもが可愛く思えない親だとしても、保育士のもつ特性でもある、人間的な温かさで子どもとその親、家族に向き合います。深い愛情を持って接することをされる人間関係の中で、安心して子どもと親が育ちます。最も弱者であり弱い存在である乳幼児に親や周りの全ての人がたっぷりと愛情を注ぐことで安心して揺らぐことのない心の根をはっていくのです。大切な心とからだの育ち始めの時期です。子どもにとって、たっぷりとした母性的関わりで向きあう親の力は偉大です。多くの場合、母親が主体的にこの関わりをしていきます。個性や価値観、プロセスの中で安心し、母親になる道程を私たち保育士が支えていくのです。連携、補完、パートナーシップ……、様々な言葉でそのことが指針の中にも示されています。日々の生活の中で、忙殺され、大人同士の感情のぶつかりあいが生まれたとしたら、「子育ての主役は子ども」その事を我々大人が真剣に考えていく事、つまり常に原点に立ち返ってほしいのです。そうすれば、保育士は親の言うことも聴くことができますし、親は保育士の意見も受容でき、お互いの考えや提案をともに、子どもの為に話し合ってい

ける筈です。

（細川）

4－7

保育園が、保育参観だけでなく、時には保護者に保育参加（保育に直接加わる）をしてもらう方針を決めた場合、協力できますか。

お互いの信頼を深める共同作業として現場体験は、とても効果的です

見えないものに対しては、そこに心配や不安が生まれます。言葉や、映像でいくら伝えても、限界があるものです。しかし実際体験することで、そこで日々、生きて生活するものの姿により広く深く添えてくるはずです。お互いの理解が深まります。そしてともに大切な子どもを育てる仲間としての意識も深まるはずです。又、その他に現場の保育士さんたちの子どもへの関わり方が直接学べます。食べ方、遊び方、寝る時の様子、それに関わる保育士の関わり方、言葉のかけ方など、実際の様々な年齢の子どもの生活の動く場面の体験ができるのです。

個人差を実感でき、異年齢の子どもの姿がつかめる

保育園は、地域における最も身近な児童福祉施設でもあります。地域の中で長年に渡って積み重ねてきた、子どもの養育に関する知識、経験、技術の蓄積があります。その中で、様々な子どもと実際に触れ合ってみたり、保育士に直接相談してみたりすることができます。

子どもの実際の姿を様々な場面で見たり、体験したりする中で、個性や、個人差も実感していくのではないでしょうか。又大人にとって都合のよい子がよい子であると思いこんでいる自らや、条件づきでの愛情で子どもに向き合ってみる親としての自らが、見えたり問い直したりできるかもしれません。子どものありのままの姿への理解不足が育児経験が浅いことによって起きてくるのかもしれません。保育参加によって間違った見方や関わりをしてしまうことが少なくなるのではないでしょうか。

保育士は、このことを深く理解し、何故保育参加が必要であり、子どもを育てて

いくことでの大切さが解れば、家庭との共同作業としての子育ての中で重要なものであることが十分納得できることと思います。さらにその方針に子どもを共に育てる協力者として積極的に参加できることでしょう。

（細川）

４－８
あなたは、連絡帳を、保護者がその内容をよく理解でき、楽しみにするような書き方をしていますか。

連絡帳は、保育士と親を繋ぐ大切なコミュニケーションのツール

親も保育士も、互いに言葉を交わすゆとりもない中では連絡帳が活躍します。さらに、共に子育てする中で子どもだけが育つのではなく、親も、我々保育士も成長する為にも保育園だけで子育てするのではない、そう思います。育児の第一義的責任は親にあることを、少しずつ解ってもらう為にも、昼間の子どもの様子を伝えていくことは大切です。

「どんな時に子育ては楽しいですか」という問いに対し

・笑顔や元気な声が聞けた時

・成長していく姿を感じる時

・安らかな寝顔を見ている時

という親の答えを聞きました。どんな親にも、子育てを楽しいものへと向けることをしてほしい、又その為の支援をしていきたいものです。子育てを楽しむようになるヒントの原点がここにあるように思います。

保育の一コマや、さりげない一場面を、切り取り、親が苦労しながらも、子育てを頑張ってやっていることへの、エンパワメントとなるようにしたいものです。

一人ひとりの育児の記録のやり取りはその子が大切に育てられた証し

肯定の言葉を使った文字での表現を心がけ、何気ない様子や関わった様々な人やもの、全ての環境を体全体で感じとった姿を書き留めます。安全、安心の中で守ら

れ、伸び伸びと自由に育つなかで、怪我、体調、又発育の細かい記録も入る、きめの細かい記録ノートにもなります。

文字として実際記録していく事で、よりシッカリとした子どもの成長の記録となり、その子の宝物のような存在、多くの人によって大切にされてきた事の紛れもない証明として残るものです。

保育士の意図が本当にシッカリと伝わっていますか？　連絡帳の書き方は、思った以上に難しいのではないでしょうか。親との文章でのキャッチボールを繰り返しながら、引っ掛かりや不安があった場合、すぐに園長や主任、先輩保育士にチェックしてもらう事が必要です。時に言葉は、人に勇気を与えますが、反対に暴力にもなってしまいます。本当の意味で親と子どもを大切にした、言葉を使う事ができているか。事実を的確にただ伝えるだけではない、生きた言葉、人の誠意や温もりのある言葉が使えるでしょうか。

（細川）

４－９
保護者同士が相談相手になれるよう、お互いをよく知り合う機会を多く設ける努力をしていますか。

様々な出会いがあり、人間関係の幅が膨らみ、そして様々な考えを知る

カウンセリングなどという設定された相談というより、より保育園ならではの良さを生かしたスタイルとして、雑談をする事でガス抜的なケアができる状況が生まれます。子どもを育てる日々の中で悩みや心配が生まれたとしても、だれかに話してその中で自ら解決の方向へ向かっていく事ができます。同じような状況の仲間が集まれば、そこには、自ら共感が生まれます。異年齢、異なった環境、それぞれの価値観も違う人間が、子どもを軸にして同じ方向を見て、話が出来る事が、それぞれ関わった人との出会いの中で様々な考えを知り、人としての幅を広げ育てます。

楽しいアイディア、工夫のある企画を親と保育園で立ててみる

春のスタートの時期から、親同士が仲良くなる為にファミリー交流もめあての一つに織り込んだ運動会やピクニックなどの色々な企画があります。

さらに子ども夏祭りなど季節の中での行事、又従来からのクラス懇談会や茶話会、給食試食会などなど、仕事をしていても、子どもと家族で楽しみや交流が持てるアイデアの工夫は、保育士さんたちの得意な分野ではないでしょうか。楽しいイベントは、大きな出会いのチャンスになります。子どもを真ん中に大人も出会い、知り合うチャンスが出来るのです。人間関係の難しさを考えるより、親同士知り合うことで、助け合うことのできる支援の手が一つ、また一つと繋がっていくのではないでしょうか。

各種相談窓口の把握をしてありますか？

発達障害、言葉の遅れが気になる、障害を持っている、虐待、DV他、保育園だけでは、支援していくことに限界がある場合は、速やかに専門機関へと繋げていくことが必要な場合があります。各機関と連携、通報の場合も考え、把握をシッカリとしておく必要があります。行政から出ている子育てを応援するパンフレットやリーフレットを利用し、保護者に知らせていきます。福祉事務所だけではなく、日頃から地域の民生主任児童委員の存在を知り、積極的に顔見知りになっておく事がお互いの信頼関係づくりの助けになり、いざ問題が発生した時には、大きな力になるはずです。

（細川）

４－10

地域の人たちによるボランティア活動などをどのように保育に組み入れたらよいか、職員間で話し合うとともに、あなた自身もきちんとした見通しをもっていますか。

先ず、ボランティアにはどんなものがあるか、職員間で統一理解していますか

ボランティアには、先ず有償と無償があります。又、有資格、無資格、社会人、

学生、さらに子ども、高齢者や主婦など、様々な人たちがいます。対応する相手は様々なのです。しかし、関わる相手は、乳幼児です。従ってその関わり方の基本について、職員全員で確認しておかなければなりません。

保育実習生も我々現場の保育士とは、別の立場にいます。ただ自由勝手に関わるのではなく、お互いに守らなければならない基本があります。その点も職員間で、何度も話し合っていき、自分たちの現場にあった組み入れ方を作り上げていく事が必要です。怪我をしたり、あるいはさせてしまったり、その時の対応も予測してあるかどうか。保険の問題はどうなっているか。職員全員が知っているでしょうか。感染してしまう病気などにも、十分な配慮がいります。

保育の場面にあった活動の提供もあります。歌や音楽を子どもたちに提供して貰ったり、昔の遊びを伝えて貰ったり、たくさんの形があります。

外部の者への窓口を広くしていくことで、新たな交流も生まれていき、保育園がより社会の中で広く認知される場所となって行く為にも、我々の柔軟な受け入れ体制は必要です。まだ人に開かれた部分として、園が十分対応していなかったとしたら、話し合うことが急がれます。

（細川）

4－11
老人会、町内会など地域組織と連携するとき、保育士としてどういう役割を担うべきか、考えたことがありますか。

地域とは実際何でしょう。又地域コミュニティについて、把握していますか

住民自ら自分たちの地域づくりに参加していき、声を上げて参画していく時代が来たことを、知っていましたか。

自分自身の保育している保育園が、地域社会の中でどのような位置を成しているか。子育てを地域の親である地域住民にも、様々な形で支援して貰っていく時に、地域そのものが把握できていなかったら、どう関わっていったら良いか分かりません。保育園と自分自身が生活している足下の個性や姿、つまり現在地が分かって初

めて方向も決まってきます。

子どもを軸にした、地域組織図があっても良いと考えられます。保育士の話し合いの中でお互いに共通理解を深める為に、現在の具体的な状況を知り、どういう役割を担うべきが提案していくことが必要です。

例えばその必要を、保育所保育指針第十二章　健康・安全に関する留意事項　5．保育の環境保健、6．事故防止・安全指導、7．虐待対応を項目別に留意していくと、地域の中で住民の一人ひとりとしてその地域で日々生活していく時、連携なしでは危うい状況がいつ発生するか分かりません。同じ章の9．地域、家庭との連携では、適切な指針内容が示されています。しかし我々大人がさらなる広がりとお互いの協力の下に、子どもたちの豊かな未来を築き、その可能性の芽を育む肥沃の大地としての大人社会、地域社会として、自らを人と人の関わりの中で豊かにしていく事がわかります。

（細川）

4－12
放課後遊びに来る学童や卒園児に、園の子どもと一緒に仲間に入って楽しく遊べるような配慮をしていますか。

子どもが社会の中で育つ事には、様々な安心できる場所が必要です。地域社会という親のような存在の中で、社会のルールを覚えていくのです

保育園で育った子どもが寂しさや、辛さに遭って、自分自身が立つ場面でその心がぐらついた時、保育園が心の故郷になるのではないでしょうか。0歳児から可愛がって世話をし関わってくれた保育園のお母さんの顔が見たくなる事があるかもしれません。自立に向け、依存は時に邪魔になります。しかし又、条件を求めず「何をやってもあなたが可愛い」「ただあなたが可愛い」といった掛け値のない子育てをしてくれた人が、ドロップアウトしていくかもしれない子どもの支えになる事もあるはずです。気に掛けて貰っていた事は、無言で知っているのが子どもです。気兼ねなく訪れる事のできる心の居場所としての保育園は、これからますます必要で

す。保育というのは、ケアという事でもありますが、育っていく中での子どもにとっての良い環境が必要であり、見守られていく事が大切なのです。楽しい人と人の関わりの中で、人間関係の良い関係が結ばれます。

卒園していった子どもが地域社会の中へ一人で出て行った時、自分を応援してくれている味方がいて、何かの勇気を自分自身で持つ時にエネルギー源としての力を与えてくれるのが育てられた保育園が持っている力ではないでしょうか。又さらに、地域でその成長ぶりを雨の日も風の日も晴れた日も、曇った日も見守る。そんな子育ての継続的な支援の姿が保育園にはあります。

いつでも心のドアを大きく開け、手を広げ待つことのできる抱擁力が、ここにきて、いじめ、不登校、ひきこもりの学校現場で、もしも子どもたちが苦しんで、どうにもならなかった時の助けとなっていくことで、その命が守られるかもしれません。社会での子育て環境が年々危ういものになっている中で、様々な支援場面が必要となるのです。

子どもが育つには、子どもが必要である。その事がまだまだ理解されていないのではないかと思われます。生活の中に当り前のようにあった年齢を超えた子ども集団は、今や育児環境の中において、実現しにくい環境の一つです。学齢前の在園児にとっても異年齢の子ども集団の中での遊びを通してのコミュニケーションが必要です。楽しい関わりで、人間関係を結ぶ多くの経験が、生きる力を育む実践となるのです。

（細川）

4－13

あなたは、保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、めんどうがらずに指導することができますか。

子どもを知らない大人社会の中で、我々が貢献していく場面です

子どもと触れ合う機会がなくなっていく。そんな危機感が膨らみます。中学校、高校といえば、思春期に入っていく時でもあります。大人社会の汚れを見て、聞い

て、大人になって汚れたくない、そんな自尊心との葛藤の時期でもあります。子どもの頃の自分を十分楽しみ肯定して、大人に向かっていく時に、もう一度子どもそのものと出会って、乳幼児と触れることは大切です。ひとときを共に過ごすことで子どもの持つ個性も良さも、悪さも実感できるからです。交流の中で、保育園の子どもたちと遊び、もう一度自分自身の子どもを発見するはずです。

又、この時期子どもを作ることの準備が整います。体が子どもを作る体になっています。その時に子どもと触れ合う事で二つの学びができます。一つは、子どもの親になる事の重大さ、命の重さを何となく実感していく事です。さらにもう一つは、時期がきて、親になった時、イメージとしての子どもが分かるのです。全く触れるチャンスがなかった子どもと、実際僅かでも体験する子との差は、大きいはずです。

保育の指導をする事は、保育の力を保育士自身が確認し、自らを育てるいいチャンスになります

他人の保育する姿を意識し、観ていくことは、意識したり、意図したりするもうひとつの目が必要です。なぜ今当たり前の事を意図してやるのか。その事の説明や、ある程度の納得を与える事が求められます。教えるとは自分が育つ事なのです。分かっていなければ指導はできません。

保育所保育指針は、しっかりとした基本を押さえています。その部分を押さえていく事が、場面や年齢でできるはずです。各章には、その事が必要に応じて述べられています。実習生と共に確認し合い、学び合っていくことは、さらなる研鑽へと向くはずです。まさに保育の力を保育士自身が確認し、自らを育てるいいチャンスになります。

（細川）

４－14

散歩や行事などで、子どもたちが地域の人々と触れ合う機会をもつようにするとともに、気持ちよくあいさつをかわしていますか。

地域で可愛がられる存在としての子どもとは…

子どもを地域の中に連れ出す環境を設定するのは大人です。保育園でいえば保育士です。孤立していく子育て環境を補完するのであれば、様々な人と触れ合う機会を意図して多く持たせていく事は大切です。例えば良くある事として子どもに出会った事のない子どもは、子どもを怖がって安心して遊びに入るまで時間が掛かります。地域の多くの大人に守られる事で、危険に満ちた環境も安全にむけた力が多く働きます。一人でも多くの顔見知りを保育士自ら作っていく動きは、その地域の中に生き続け、地域で育つ時の力なのです。

挨拶は、その人と人を繋ぐコミュニケーションの中で最も簡単で、最も使いやすく、力を持った言葉です。

０歳の時から育つ事のできる保育園の現場では、昼間子どもが育つ場面を今、現にそこに存在しない親に代わって、保育士が自らやってみせ、教えます。日常的な生活の中でたくさんの人々と触れ合う機会を持ちます。ある時は、お散歩カーを押しながら、あるいは、おんぶしながら、「おはようございます」「こんにちは」「いいお天気ですね」といった声をこちらから掛けていき、和やかな安心できる環境が作られていきます。挨拶を交わすことを保育士自ら心地よくできることは、当然かたわらの子どもにも伝わります。保育園を核とした、人と人の良い関係が生まれる地域が育っていくはずです。安心感で満ちた、おおらかな関係が育まれ、子どもに優しい地域になります。子ども嫌いの大人社会を、子ども好きで子どもを積極的に支援していく地域へと変える力も挨拶から始まるかもしれません。

（細川）

4－15
地元の公共機関を利用するなど、地域の人々にかわいがられて、子どもたちが豊富な社会体験を得られるようにしていますか。

地域の公共機関の把握や社会的資源としての活用の方法を理解されていますか？

図書館、公民館、保健センター、小学校、中学、高校さらには、大学、公園、博物館、水族館、各種史料館、美術館、etc…思いつくだけでも様々な公的財産が地域にあるはずです。小さな子どもを連れてどう関わるか。利用料や減免利用の方法なども含めて、付き合い方のルールがあるはずです。

例えば、幼児が美術館を利用した事を例にあげてみます。たまたま、その美術館は、小学生からの利用でしか団体の無料の減免がされていなかった事がありました。早速働きかけて、学齢前の利用が可能になるよう手続きしてもらう「利用申請」を作成し投げかけてみました。美術館は、初めてのケースでありながら、寛容な対応をしてくれ、無料での利用をする事ができました。美術館自体も学齢前からの子どもへ、絵の見方、楽しみ方を教えていく機会を持ちました。未来の市民が、芸術に対しての視野を持って育つ原点の機会を持ったわけですから…。美術館側が、簡単で分かりやすい観賞のルールやポイントを小学校低学年むけのものを下敷きに作りました。保育園側も、学芸員と共に観賞の量やルートの話し合いを持ち、子どもたちは十分楽しみ、素晴らしい体験となりました。美術館側も学齢前の子どもが絵画の観賞ができる事に改めて感心していました。こういった機会を多く持つ事が、乳幼児理解にもつながります。子育てへの協力者が又、多くなっていくというわけです。

（細川）

4－16

公園などの公共の場を使用した後は、あなたは子どもたちと一緒に清掃するなど、気を配っていますか。

地域の公共の場を使用していく時に気に掛ける事

保育園で生活する子どもが、最も生活の中で親に教えてもらうチャンスが少ない事として、昼間親が働いている間におおむね利用できる公共の場でのマナーもあります。それは時間を掛けて、生活しながら親の姿を見て一般常識として知り、やがて自らも同じように自然な形で身に付けていくものではないでしょうか。

公の場を利用する事が、個人にかかわる物事でなく、組織社会の全体にかかわっていること。個人が持っている物でなく、みんなの物であることを教えていきます。その時に、子どもたちと一緒にお掃除をして帰る。あるいは、ゴミを拾っていく、お部屋の利用をさせてもらったら、使用した物品をも一度整えていくなど、かたわらに子どもをおいて、大人である保育士が先ずやって見せる事ではないでしょうか。社会の中で共に生きていく事を折り合っていく為にも、このように日々気に掛けていく事も大人の仕事として大切です。

子どもは、大好きな人のいうことを聞きます。真似します。学齢前の大切な仕付けとして、公の物、つまりみんなで使う物は、大切であることを保育士が身をもって教えるのです。さて、そこから親にもこのことを伝えていきます。今ここには親はいないのだから、親だったら何を大切にして伝えていくだろうか……。大切な一緒に育てている子どもに提供できる事をいろいろな場面で実際に教えた後に、この日この時いなかった親に伝えておく事までが、これからの保育園の仕事です。「こういった意図で、このように教え一緒にこうして、こんな反応だった。」それは育児のなかで親が親に育っていく中で、分からないまますぎていくにはもったいない事です。育児の丸投げ、外注化では、親が親として育つ事のチャンスを失うからです。少ない時間の中でも、保育園で教えてもらった事を、親子で身に付いた形で、大切なことだと思って、地域社会の中で実際にやってくれることがあるはずです。

（細川）

4－17
あなたは、言葉が通じない外国人に、尻込みしないで身ぶり手ぶりでも対応できますか。

人を大切にし相手を尊ぶ事をその姿で示す事が子育ての基本姿勢です

子どもは、大好きな人の真似をします。受け持った保育士は、まさに子どもにとって将来の人間形成に大きな影響を及ぼします。日々の園の生活で空気を感じとって、自然な見習いとし、自分を育てていくはずです。我々の人としての人格、人間性が常に子どもの目というフィルターを通して伝えられています。そのため当然十分な考慮がいります。

外国人は、文化の違いがはっきりと分かります。その対応にどんな姿で向き合うのか分かりやすい姿として表れます。ヨーロッパ、アメリカ、アジア。人種も黒人、白人など様々です。

人を大切にし、相手を尊ぶ事をその姿で示す事が子育ての基本姿勢です。困っている人がいればすぐに対応しようとしているかどうか。全く文化が違う、言葉も通じない人に対応する場面に、相手を大切にしているのか。尊ぶ態度で接しているのか。それは、当然保育の基本姿勢の一つとも言えましょう。人が、隣人としての地域、文化の違う人とも手をつなぐことができる。連携し、子どもを含む家族みんなが当たり前の幸福追及の営みをしていけることが大人によって追及されているのです。

様々な人がいることを受け入れることは、人間関係の中で折り合って、相手を受容していく為にも必要なセンスです。大人の自分も、子どものおかげでその部分が育ちませんか？　今まで後込みし、どう接していいか分からなかった、異文化の人とも、コミュニケーションを持とうとしていくことは、まさに自分育てです。

さて、外国人だけでなく、障害者に関しては、どうでしょう。心無い中傷で障害を持った人を排除していく大人がよくみかけられます。悲しい事です。お互いが助け合い支え合っていくことで小さな力も、大きな力となっていく事ができるはずです。我々保育士の生き方そのものが、日々の保育の場面で問われます。

（細川）